

感染性腸炎とは、細菌、ウイルス及び原虫・寄生虫などの病原微生物による腸管感染が原因で様々な腹部症状を引き起こす病気です。

1 流行期

例年は11月初め頃から増加し始め、12月をピークに一旦は減少しますが、1月から3月にかけて再度増加し、12月のピークはノロウイルス、1月から3月の再増加はロタウイルスの流行によるものとされています。一方、食中毒の代表である腸炎ピリリオなどの細菌感染は、夏場に多く認められます。

2 病原体

細菌性では腸炎ピリリオ、病原大腸菌、サルモネラ、キャンピロバクターなどが、ウイルス性ではノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなどが挙げられます。また、原虫や寄生虫ではクリプトスポリジウム、赤痢アメーバ、ランブル鞭毛虫などが原因となります。

感染様式は、感染患者の排泄物や吐物への接触感染、食中毒では汚染された水や食品による経口感染、ペットなどの動物への接触感染が原因となります。

3 臨床症状

原因となる病原体の種類、感染様式、感染菌量、宿主の状態（年齢、

基礎疾患の有無）などにより症状は様々ですが、通常は感冒様症状に始まり、発熱、嘔吐、腹痛、下痢が後から続いて出てきます。さらに症状が続くと脱水（顔面蒼白、頻脈や意識障害）になることがあります。特に、乳幼児や高齢者は脱水に陥りやすいので、皮膚の張りの消失、口唇の乾燥の有無に注意する必要があります。

4 診断

多種多様の病原体がありますので、症状、経過、便の性状、患者背景、季節性、海外渡航歴、ペット飼育の有無が診断する上で非常に参考になります。血液検査では特異的なものはありませんが、細菌感染の場合は白血球数、CRPの上昇が認められます。寄生虫が疑われる場合は、糞便の顕微鏡観察、細菌感染では便培養が必要で、ウイルス感染では、便中抗原検出が最も簡便かつ短時間で結果が得られます（ただし、ノロウイルスの場合、現時点では一部の対象者を除き、健康保険は適用されません）。

5 治療

ウイルス性のものは、基本的には対症療法のみです。すなわち、脱水対策であり、十分な水分補給が中心になります。嘔気、嘔吐の強い時期は禁食とし、水分を少量ずつ頻回に摂取することが大事です。ただし、

乳幼児や高齢者は脱水に陥りやすいので、点滴が必要な場合もあります。薬物に関しては対症療法が中心で、整腸剤、制吐剤、止痢剤や鎮痙剤を使用しますが、下痢は生体防御反応の表れですので、止痢剤は症状が激しいとき以外は原則として使用しません。

6 予防

感染性腸炎は病原体への接触や汚染された水や食品の摂取により起こりますので、基本的には手洗いを励行することで2次感染（流行）の予防につながります。また、食中毒は生魚、生肉の摂取又は不十分な加熱処理が原因ですので、夏場のみならず冬場でも起こり得ることです。食品の購入、保存、調理には、十分に注意を払う必要があります。

以上のとおり、健康に自信がある方でも感染性腸炎にかかりませんが、通常は、風邪と同様に安静、水分補給と薬の内服により短期間で治ります。しかし、抵抗力の弱い乳幼児、高齢者や糖尿病などの慢性疾患を有する方は重症化する場合がありますので、十分な見守りが必要です。

わたしたちの健康

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

| 月日 | 場所 | 施設名 | 科目 | ☎(048) | 場所 | 施設名 | 科目 | ☎(048) | |
|----|----|-----|------------|------------------|----------|-----|------------|--------|--------------|
| 8 | 5 | 和光 | 和光駅前クリニック | 外・内・小・整外・消内・肛・リハ | 460-3466 | 新座 | 梅沢皮膚科クリニック | 皮 | 042-472-5118 |
| | 12 | 朝霞 | くろだ内科クリニック | 内・消内 | 450-7711 | 新座 | 三須耳鼻咽喉科 | 耳・アレ・気 | 480-1187 |
| | 19 | 志木 | 岩崎小児科医院 | 小・内・皮 | 474-7474 | 朝霞 | 根本整形外科 | 整外 | 467-4154 |
| | 26 | 和光 | 富澤整形外科・内科 | 整外・リウ・泌・内・消内・リハ | 468-3456 | 志木 | 田口皮膚科医院 | 皮 | 473-8889 |



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。